

平成 27 年度 九州大学 2 次試験後期日程 (数学問題)120 分

工学部 3 月 12 日 数学 I・II・III・A・B

1 座標空間における直方体 ABCD-EFGH において, 点 A, B, C, D の座標をそれぞれ $(0, 0, 2)$, $(2, 0, 2)$, $(2, 4, 2)$, $(0, 4, 2)$, 点 E, F, G, H の座標をそれぞれ $(0, 0, 0)$, $(2, 0, 0)$, $(2, 4, 0)$, $(0, 4, 0)$, とする. また, 線分 AD を $s : (1 - s)$ に内分する点を I, 線分 FG を $t : (1 - t)$ に内分する点を J とする. ただし, $0 < s < 1$, $0 < t < 1$ である. このとき, 以下の問いに答えよ.

- (1) 線分 AJ と平面 BEI の交点を P とし, ベクトル \vec{AB} , \vec{AD} , \vec{AE} をそれぞれ \vec{b} , \vec{d} , \vec{e} としたとき, ベクトル \vec{AP} を \vec{b} , \vec{d} , \vec{e} , s , t で表せ.
- (2) 平面 BEI に対して垂直なベクトルを求めよ. ただし, その x 成分は 1 とする.
- (3) ベクトル \vec{AP} が平面 BEI に対して垂直となるとき, s を t で表せ.

2 チーム A と B が複数回試合を行って優勝チームを決めるものとする. ただし, いずれの試合においても, 引き分けはないものとし, チーム A が勝つ確率は q ($0 < q < 1$) であり, 各試合の勝敗は互いに独立に決まるとする. このとき, 次の 2 種類のルールを考える.

ルール 1: 最大 3 回試合を行い, 先に 2 勝したチームを優勝とする.

ルール 2: どちらか一方が 2 連勝するまで試合を繰り返し, 2 連勝したチームを優勝とする.

以下の問いに答えよ.

- (1) ルール 1 を採用した場合に, チーム A が優勝する確率 $P_1(q)$ を q で表せ.
- (2) ルール 2 を採用した場合に, チーム A が優勝する確率 $P_2(q)$ を q で表せ.
- (3) $P_1(q) \geq P_2(q)$ となる条件を求めよ.

3 x, y を 0 以上 1 以下の実数とする. このとき, 以下の問いに答えよ. ただし, a, b, c, d が実数のとき, $\max(a, b)$ は a, b のうち最大の数を表し, $\max(a, b, c, d)$ は a, b, c, d のうちの最大の数を表す.

- (1) $\max(xy, 1 - xy)$ の最小値を求めよ.
- (2) $\max(xy, 1 - xy, x, y)$ の最小値を求めよ.

- 4 数列 $\{x_n\}$ の第 n 項を $x_n = r^{n-1}$ で定める．このとき，正の実数 x に対して定義された関数 $f(x) = x^{-\alpha}$ を用いて，2つの数列 $\{a_n\}$ と $\{b_n\}$ を，それぞれ $a_n = f(x_n)(x_{n+1} - x_n)$ と $b_n = f(x_{n+1})(x_{n+1} - x_n)$ で定める．ただし， α は正の定数， r は 1 より大きい実数とする．以下の問いに答えよ．

(1) α の値に応じて級数 $a(r) = \sum_{n=1}^{\infty} a_n$ の収束，発散を調べ，収束するときは和を求めよ．

(2) α の値に応じて級数 $b(r) = \sum_{n=1}^{\infty} b_n$ の収束，発散を調べ，収束するときは和を求めよ．

(3) 極限 $\lim_{r \rightarrow 1+0} a(r)$ と $\lim_{r \rightarrow 1+0} b(r)$ のそれぞれについて，極限が有限な値である場合，その値を求めよ．

- 5 座標平面上の直線 $l: y = -1$ と $F(0, 2)$ を考える．以下の問いに答えよ．

- (1) 直線 l 上を動く点を D とする．点 P を，線分 DP と線分 FP の長さが等しく，かつ DP が y 軸と平行となるように定める．このとき，点 P の軌跡 C を求めよ．
- (2) a を実数とする．点 F を通り，傾きが a の直線 $m: y = ax + 2$ を考える．直線 m と軌跡 C の交点が 2 つあることを示し，それぞれの座標を求めよ．ただし，2 つの交点を A, B とし，点 A の x 座標が点 B の x 座標より小さいとする．
- (3) 点 A, B における軌跡 C の接線をそれぞれ l_A, l_B とする．接線 l_A, l_B は互いに垂直であることを示せ．
- (4) 接線 l_A, l_B の交点を通り， y 軸に平行な直線を n とする．直線 n は線分 AB と，点 A, B とは異なる点で交わることを示せ．また，軌跡 C ，直線 m ，直線 n によって囲まれる図形のうち，直線 n の左側にある部分の面積を S_A とし，右側にある部分の面積を S_B とする．このとき， S_A と S_B の比を求めよ．

解答例

$$\boxed{1} \quad (1) \text{ 条件から } \vec{AJ} = \vec{b} + t\vec{d} + \vec{e}$$

$\vec{b} = \vec{AB}$, $s\vec{d} = \vec{AI}$, $\vec{e} = \vec{AE}$ であるから

$$\begin{aligned} \vec{AJ} &= \vec{AB} + t \cdot \frac{1}{s} \vec{AI} + \vec{AE} \\ &= \frac{s\vec{AB} + t\vec{AI} + s\vec{AE}}{s} \\ &= \frac{s}{2s+t} \cdot \frac{s\vec{AB} + t\vec{AI} + s\vec{AE}}{2s+t} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{よって } \vec{AP} &= \frac{s\vec{AB} + t\vec{AI} + s\vec{AE}}{2s+t} = \frac{s\vec{b} + t \cdot s\vec{d} + s\vec{e}}{2s+t} \\ &= \frac{s}{2s+t} (\vec{b} + t\vec{d} + \vec{e}) \end{aligned}$$

- (2) $\vec{EB} = (2, 0, 2) = 2(1, 0, 1)$, $\vec{EI} = (0, 4s, 2) = 2(0, 2s, 1)$
 求めるベクトルを $\vec{n} = (1, y, z)$ とおくと, $\vec{EV} \perp \vec{n}$, $\vec{EI} \cdot \vec{n}$ より,
 $\vec{EV} \cdot \vec{n} = 0$, $\vec{EI} \cdot \vec{n} = 0$ であるから

$$1 + z = 0, \quad 2sy + z = 0 \quad \text{ゆえに } z = -1, \quad y = \frac{1}{2s}$$

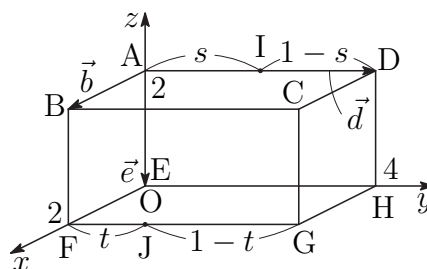
$$\text{よって } \vec{n} = \left(1, \frac{1}{2s}, -1 \right)$$

- (3) (1) の図から $\vec{AJ} = (2, 4t, -2)$

このとき, \vec{AP} が平面 BEI に対して垂直であるとき, $\vec{AJ} // \vec{n}$ であるから,
 x 成分に注意すると

$$\vec{AJ} = 2\vec{n} \quad \text{すなわち} \quad (2, 4t, -2) = \left(2, \frac{1}{s}, -2 \right)$$

$$\text{したがって } 4t = \frac{1}{s} \quad \text{よって } s = \frac{1}{4t}$$



2 (1) チーム A が優勝するのは，チーム A が次の勝敗のときである．

(勝, 勝), (勝, 負, 勝), (負, 勝, 勝)

したがって，求める確率 $P_1(q)$ は

$$\begin{aligned} P_1(q) &= qq + q(1-q)q + (1-q)qq \\ &= q^2(3-2q) \end{aligned}$$

(2) チーム B が勝つ確率を r とおくと ($r = 1 - q$)，求める確率 $P_2(q)$ は，
 $0 < qr < 1$ に注意して

$$\begin{aligned} P_2(q) &= (1 + qr + qrqr + \cdots)qq + r(1 + qr + qrqr + \cdots)qq \\ &= (1+r)q^2(1 + qr + qrqr + \cdots) \\ &= (1+r)q^2 \times \frac{1}{1-qr} = \frac{\{1 + (1-q)\}q^2}{1-q(1-q)} = \frac{(2-q)q^2}{1-q+q^2} \end{aligned}$$

別解 勝負の途中，A が勝ったときに A が優勝する条件付き確率を a ，B が勝ったときに A が優勝する条件付き確率を b とすると

$$a = q + (1-q)b, \quad b = qa \quad \text{ゆえに} \quad a = \frac{q}{1-q+q^2}, \quad b = \frac{q^2}{1-q+q^2}$$

$$\text{よって} \quad P_2(q) = qa + (1-q)b = \frac{(2-q)q^2}{1-q+q^2}$$

(3) (1),(2) の結果から， $P_1(q) \geq P_2(q)$ のとき

$$q^2(3-2q) \geq \frac{(2-q)q^2}{1-q+q^2}$$

$0 < q < 1$ ， $1-q+q^2 > 0$ より

$$(2-q)(1-q+q^2) \geq 2-q \quad \text{ゆえに} \quad (q-1)^2(2q-1) \leq 0$$

$$\text{よって} \quad 0 < q \leq \frac{1}{2}$$

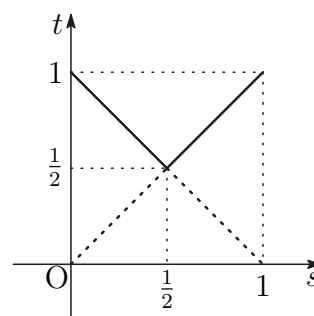
3 (1) $0 \leq x \leq 1, 0 \leq y \leq 1$ より, $s = xy$ とおくと

$$0 \leq s \leq 1$$

$t = \max(s, 1-s)$ のグラフは右のようになる.

よって, t は $s = \frac{1}{2}$ のとき最小値をとる.

すなわち, $xy = \frac{1}{2}$ のとき, 最小値 $\frac{1}{2}$ をとる.



別解 $\max(a, b) = \frac{a+b+|a-b|}{2}$ であるから

$$\max(xy, 1-xy) = \frac{1+|2xy-1|}{2} \geq \frac{1}{2}$$

$0 \leq xy \leq 1$ であるから, $xy = \frac{1}{2}$ のとき, 最小値 $\frac{1}{2}$ をとる.

(2) x と y の対称性により, $0 \leq y \leq x \leq 1$ とし, $y = kx$ ($0 \leq k \leq 1$) とおくと

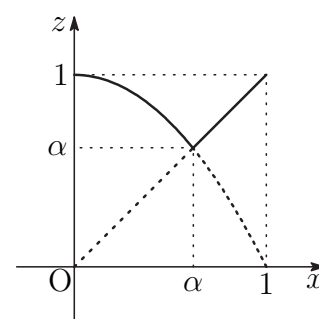
$$xy \leq x, \quad 1-xy = 1-kx^2, \quad y \leq x$$

したがって $\max(xy, 1-xy, x, y) = \max(1-kx^2, x)$

$1-kx^2 = x$ を $0 \leq x \leq 1$ に注意して解くと

$$x = \frac{\sqrt{1+4k}-1}{2k} = \frac{2}{\sqrt{1+4k}+1}$$

($k=0$ のときは, 右上の値から $x=1$ を得る)
これを α とおくと, $z = \max(1-kx^2, x)$ のグラフは右のようになる. グラフから, 求める最小値は α であり, α は $k=1$ のとき最小となる.



よって, $x = y = \frac{\sqrt{5}-1}{2}$ のとき, 最小値 $\frac{\sqrt{5}-1}{2}$ をとる.

4 (1) $x_n = r^{n-1}$, $f(x) = x^{-\alpha}$ であるから

$$\begin{aligned} a_n &= f(x_n)(x_{n+1} - x_n) = f(r^{n-1})(r^n - r^{n-1}) = (r^{n-1})^{-\alpha}(r-1)r^{n-1} \\ &= (r-1)(r^{-\alpha}r)^{n-1} = (r-1)(r^{1-\alpha})^{n-1} \end{aligned}$$

$r > 1$, $\alpha > 0$ であるから

$$0 < \alpha \leq 1 \text{ のとき } r^{1-\alpha} \geq 1, \quad \alpha > 1 \text{ のとき } 0 < r^{1-\alpha} < 1$$

よって $0 < \alpha \leq 1$ のとき, $a(r)$ は発散する.

$\alpha > 1$ のとき, $a(r)$ は収束し,

$$a(r) = (r-1) \times \frac{1}{1-r^{1-\alpha}} = \frac{r-1}{1-r^{1-\alpha}}$$

(2) (1) と同様にして

$$\begin{aligned} b_n &= f(x_{n+1})(x_{n+1} - x_n) = f(r^n)(r^n - r^{n-1}) = (r^n)^{-\alpha}(1-r^{-1})r^n \\ &= (1-r^{-1})(r^{-\alpha}r)^n = (1-r^{-1})(r^{1-\alpha})^n \end{aligned}$$

$r > 1$, $\alpha > 0$ であるから

$$0 < \alpha \leq 1 \text{ のとき } r^{1-\alpha} \geq 1, \quad \alpha > 1 \text{ のとき } 0 < r^{1-\alpha} < 1$$

よって $0 < \alpha \leq 1$ のとき, $b(r)$ は発散する.

$\alpha > 1$ のとき, $b(r)$ は収束し,

$$b(r) = (1-r^{-1}) \times \frac{r^{1-\alpha}}{1-r^{1-\alpha}} = \frac{(r-1)r^{-\alpha}}{1-r^{1-\alpha}}$$

(3) $g(r) = r^{1-\alpha}$ とおくと, $g'(r) = (1-\alpha)r^{-\alpha}$ より, $g'(1) = 1-\alpha$ であるから

$$\lim_{r \rightarrow 1+0} \frac{g(r) - g(1)}{r-1} = g'(1) \quad \text{すなわち} \quad \lim_{r \rightarrow 1+0} \frac{r^{1-\alpha} - 1}{r-1} = 1-\alpha$$

したがって, (1), (2) の結果から

$$\begin{aligned} \lim_{r \rightarrow 1+0} a(r) &= \lim_{r \rightarrow 1+0} \frac{r-1}{1-r^{1-\alpha}} = \lim_{r \rightarrow 1+0} \frac{-1}{\frac{r^{1-\alpha}-1}{r-1}} = \frac{-1}{1-\alpha} = \frac{1}{\alpha-1} \\ \lim_{r \rightarrow 1+0} b(r) &= \lim_{r \rightarrow 1+0} \frac{(r-1)r^{-\alpha}}{1-r^{1-\alpha}} = \lim_{r \rightarrow 1+0} \frac{-r^{-\alpha}}{\frac{r^{1-\alpha}-1}{r-1}} = \frac{-1}{1-\alpha} = \frac{1}{\alpha-1} \end{aligned}$$

- 5 (1) 点 P の座標を (x, y) とすると, $DP^2 = FP^2$ であるから

$$(y+1)^2 = x^2 + (y-2)^2 \quad \text{よって} \quad y = \frac{1}{6}x^2 + \frac{1}{2}$$

- (2) (1) で求めた方程式と $y = ax + 2$ から y を消去すると

$$\frac{1}{6}x^2 + \frac{1}{2} = ax + 2 \quad \text{ゆえに} \quad x^2 - 6ax - 9 = 0 \quad \dots \textcircled{1}$$

上の第 2 式から $(x - 3a)^2 = 9(a^2 + 1)$

したがって, x は異なる 2 つの実数解 $x = 3a \pm 3\sqrt{a^2 + 1}$ をもつ.

2 点 A, B の座標は, x 座標に注意して

$$\begin{aligned} A(3a - 3\sqrt{a^2 + 1}, 3a^2 + 2 - 3a\sqrt{a^2 + 1}), \\ B(3a + 3\sqrt{a^2 + 1}, 3a^2 + 2 + 3a\sqrt{a^2 + 1}) \end{aligned}$$

- (3) $f(x) = \frac{1}{6}x^2 + \frac{1}{2}$ とおくと $f'(x) = \frac{1}{3}x$

2 点 A, B の x 座標をそれぞれ α, β とすると, $\textcircled{1}$ の解と係数の関係により

$$\alpha\beta = -9$$

したがって $f'(\alpha)f'(\beta) = \frac{1}{9}\alpha\beta = -1$ よって l_A と l_B は直交する.

- (4) l_A の方程式は

$$y - \left(\frac{1}{6}\alpha^2 + \frac{1}{2}\right) = \frac{1}{3}\alpha(x - \alpha) \quad \text{ゆえに} \quad y = \frac{1}{3}\alpha x - \frac{1}{6}\alpha^2 + \frac{1}{2}$$

同様にして, l_B の方程式は $y = \frac{1}{3}\beta x - \frac{1}{6}\beta^2 + \frac{1}{2}$

l_A と l_B から y を消去すると

$$\frac{1}{3}\alpha x - \frac{1}{6}\alpha^2 + \frac{1}{2} = \frac{1}{3}\beta x - \frac{1}{6}\beta^2 + \frac{1}{2} \quad \text{これを解いて} \quad x = \frac{\alpha + \beta}{2}$$

$\alpha < \beta$ であるから $\alpha < \frac{\alpha + \beta}{2} < \beta$

したがって, 直線 n は, 線分 AB と, 点 A, B とは異なる点で交わる.

$$ax + 2 - \left(\frac{1}{6}x^2 + \frac{1}{2} \right) = -\frac{1}{6}(x - 3a)^2 + \frac{3}{2}(a^2 + 1),$$

$\beta - 3a = 3a - \alpha = 3\sqrt{a^2 + 1}$ であるから

$$\begin{aligned} S_A &= \int_{\alpha}^{3a} \left\{ -\frac{1}{6}(x - 3a)^2 + \frac{3}{2}(a^2 + 1) \right\} dx \\ &= \left[-\frac{1}{18}(x - 3a)^3 + \frac{3}{2}(a^2 + 1)(x - 3a) \right]_{\alpha}^{3a} = 3(a^2 + 1)^{\frac{3}{2}} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} S_B &= \int_{3a}^{\beta} \left\{ -\frac{1}{6}(x - 3a)^2 + \frac{3}{2}(a^2 + 1) \right\} dx \\ &= \left[-\frac{1}{18}(x - 3a)^3 + \frac{3}{2}(a^2 + 1)(x - 3a) \right]_{3a}^{\beta} = 3(a^2 + 1)^{\frac{3}{2}} \end{aligned}$$

よって $S_A : S_B = 1 : 1$

解説 一般の放物線の焦点 F を通る直線について, (3) の結果が成立する.

放物線 $C : x^2 = 4py$ の焦点 $F(0, p)$ を通る直線 m と C との交点を A, B とし, その x 座標をそれぞれ a, b とすると, A における接線 l_A の方程式は

$$a \left(x - \frac{a}{2} \right) = 2py$$

A から準線 $l : y = -p$ に垂線 AH を引くと, FH の中点 $M(\frac{a}{2}, 0)$ は l_A 上にあるから, l_A は $\angle FAH$ の二等分線である.

同様に l_B は $\angle FBI$ の二等分線である. $\angle FAH = 2\alpha$, $\angle FBI = 2\beta$ とおくと

$$2\alpha + 2\beta = \pi \quad \text{ゆえに} \quad \alpha + \beta = \frac{\pi}{2}$$

よって $\angle AJB = \pi - (\alpha + \beta) = \frac{\pi}{2}$

$m : y = kx + p$ とおくと, C と m から y を消去すると

$$x^2 = 4p(kx + p) \quad \text{ゆえに} \quad x^2 - 4pkx - 4p^2 = 0$$

この方程式の解が a, b であるから, 解と係数の関係により $ab = -4p^2$

また, 直線 l_B の方程式は $b \left(x - \frac{b}{2} \right) = 2py$

l_A と l_B の交点 J の座標は

$$\left(\frac{a+b}{2}, \frac{ab}{4p} \right) \quad \text{すなわち} \quad \left(\frac{a+b}{2}, -p \right)$$

よって, J は準線 l 上にあり, H と I の中点である.

